

経営比較分析表（令和3年度決算）

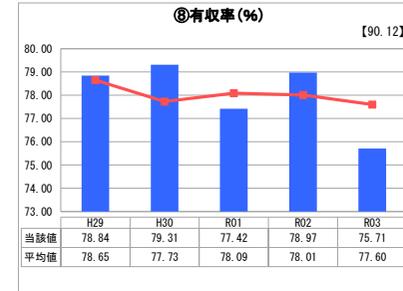
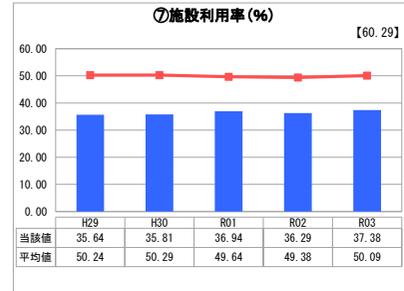
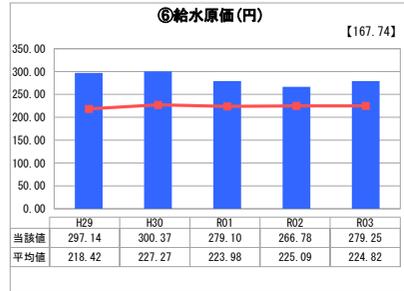
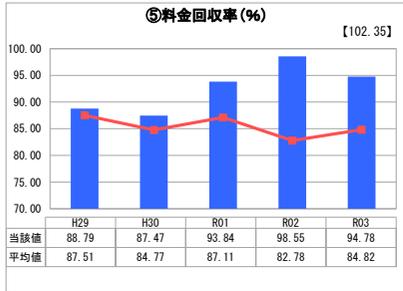
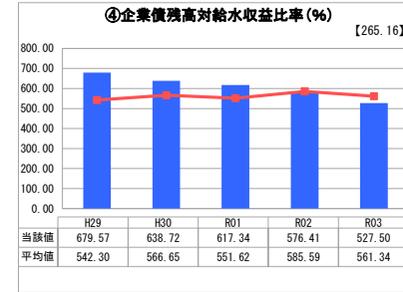
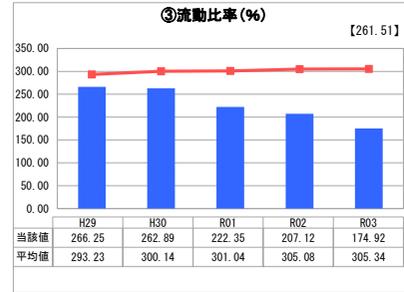
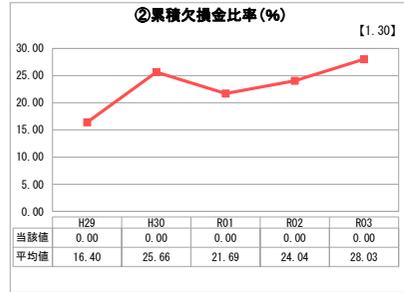
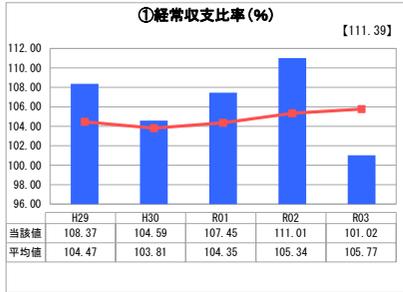
宮城県 川崎町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客塵料金(円)	
-	61.14	96.56	4,455	

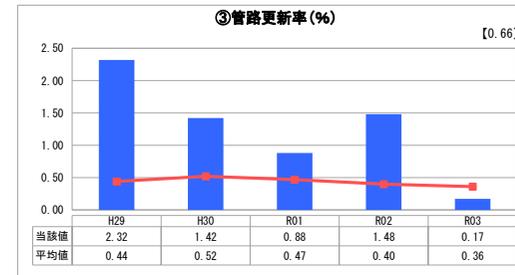
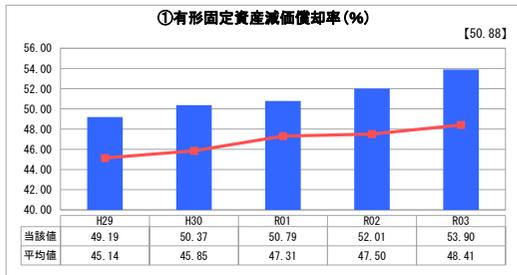
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,430	270.77	31.13
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,091	47.31	171.02

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は今年度大きく落ち込んだ。原因としては、人口減少による収益減、管路補修の経費増などが挙げられる。
 料金回収率約95%、有収率約76%と、いずれも前年より下がっている。8つの浄水場の効率的な施設運営を心掛けると共に、無駄な水を作らないよう、取水・ろ過・配水という一連の水量バランスを見直す必要がある。また、管の老朽化による潜在的な漏水も一因と思われる。技師のバトルによる漏水の早期探知に努めている。
 補助金などの料金外収入に依存する傾向が見られるため、体質の改善が必要である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が右肩上がりとなっており、設備全体の更新が進んでいないことが分かる。特に浄水場の老朽化が課題となっているが、更新の目途は立っていない。管路についても、経年化率が上がっている。順次更新する計画はあるものの追いついていない状況である。

全体総括

将来の展望として、人口減少に伴い給水収益も減少していくことは明らかである。したがって、効率的な経営によりコストを縮減していく必要がある。特に、商売である以上、料金回収率は100%を確保したい。
 設備や管路は長期的な計画に基づいて更新していく。当町は面積が広く、総管路延長が長い。浄水場も8つある。つまりは、人口の割に設備が多い状態にある。施設更新の際は、その施設の需要の推移も見据え、必要十分な範囲で更新していく。